

町長 行政報告



池田町長

平成26年度は、平成25年度繰越事業であった葉山総合センター整備事業が入札不調により執行が出来なかった。その他各事業については執行することができた。また、平成26年度の一般会計及び特別会計の出納を5月末日に閉鎖し、歳入歳出の決算を行った。それぞれ黒字決算となる見込みである。

高幡圏域における広域避難に関する協定
南海トラフ巨大地震に

おける被害想定では、高幡圏域の須崎市・中土佐町・梶原町・四万十町・津野町の5市町で、最大でおよそ4千400人余りの避難所スペースが不足する。5市町それぞれで収容避難所の施設状況の把握と想定避難者数の算出などにより広域避難の対象となる施設の選定を行った。

津野町においては、指定している16カ所の避難施設のうち、比較的小規模な避難所や福祉避難所、また、学校施設については早期再開を想定して除外し、7施設を広域避難所として選定をした。

各市町を取りまとめた結果、受入可能人数は約3千400人という結果が得られた。一定のスペースを確保出来たことから去る4月10日に5市町で「高幡圏域における広域避難に関する協定」を締結した。

自主防災組織の充実
昨年度に引き続き、町と社協が連携し、町内を20のブロックに分け順次地区集会所等に出向き、自主防災活動についての説明と役割

について意見交換を行ってきた。

昨年度は32地区で22の自主防災組織が規約を策定し、活動を行う組織も出てきている。今後、町としては組織の規模に合わせた資器材の整備を検討していきたい。

地域路線バスの再編

高南観光自動車も運営している地域路線バス「久礼船戸線」は、中土佐町のJR久礼駅前を起点に大野見庁舎、津野町桑ヶケ市を經由し、船戸町まで1日2往復を運行している。中土佐町から、利用率の低い公共交通の見通しの中、平成27年10月から「久礼船戸線」を地域路線バスからコミュニティバスに変更し、週2日、4.5往復で大野見診療所から中土佐町上高樋間で運行したい旨の再編案を示された。

これを受け、去る5月19日に船戸総地区に対し説明会を行った。当路線は現在、利用者が1日平均0.8人と低い状況であるが、交通弱者の移動手段として維持する必要もあることから既存のスクールバスの一般乗車を

可能にするなど、当面の対応策を検討している。高知高陵交通の路線バス、町営バスを含め、地域や関係企業の意見も聴取し、利便性と収益バランスのとれた公共交通の再編に取り組んでいく。

地方創生総合戦略の策定

町の人口減少など喫緊の課題に対し、全庁的な連携体制の確保と戦略的な施策の推進を図り、自立的かつ持続可能な地域社会を創生するため「津野町まち・ひと・しごと創生本部」を設置するとともに、その推進軸として一チーム13人の職員で構成するワーキングチーム3チームを設置し、津野町総合戦略の策定作業に着手した。

全職員に「地方創生一提案」を求め、現在144事業の提案があつている。これに「津野町まちづくり計画」や住民の意見なども反映し、専門家等で構成する有識者会議での審議を経て、10月には津野町独自の「まち・ひと・しごと総合戦略」を策定する。

奥四万十博

開幕を1年後に控え「奥四万十博推進総大会」を開催し、須崎市の道の駅「かわうその里すさき」に協議会事務所を開設した。津野町では去る3月16日に町内商工業者52名の出席を得、説明会を開催し今後どのように動いていくべきかを考えるきっかけづくりを行った。

6月27日には、津野町の魅力再発見とその活用をテーマに、1回目のワークショップを開催する。このワークショップで出された「気づき」を元に、2回、3回とワークショップを重ね、形あるものに作り上げていきたい。なお、奥四万十博サテライト会場を、本町では道の駅「布施ヶ坂」に設置し情報発信をしていく準備を進めている。

天狗荘の運営状況

一般財団法人天狗荘は昨年の11号台風に伴う林道東津野城川線の道路崩壊による通行止めが大きく影響し、年間売上額が前年対比約2千970万円の減収となった。天狗荘の集客は、山岳観